

持続可能な社会づくりのために

環境省 環境カウンセラー 出口 省 吾



員弁中学校中庭の「緑のカーテン」

1970年の大阪万博や1985年の筑波科学万博では圧倒的な科学技術によるワクワク未来像を連想させる説得力があった。2005年の愛地球博は、それまでの万博と何かが違っていた。個性的な建物も少なく地味な「自然の叡智」をテーマとした持続可能な内容であった。日本館に入る時、壁面緑化に出会った。「こんなものを採用する人がいるのだろうか？」って疑問に思った。でも、今、自分は…

第7話 「自然の叡智」

（広める活動事例①）～員弁中学校2年選択理科の挑戦～

三重県内では先陣を切って桑名市の中学校や東員町の小中学校の一般教室にエアコンが設置されました。いなべ市の小中学校の2校にもすでに設置されています。そのような経緯もあり、「いなべ市全体の小中学校の一般教室にもエアコンを設置してほしい」という要望が出ています。しかし、この件に関しては、市民レベルで論議の必要性を感じています。

「今の時代にエアコンがないのはおかしい！」とか、「子どもたちに夏に涼しくて快適な環境で勉強をさせたい」という気持ちはよくわかるのですが、未来の人間づくりの場であり、しかも最も暑い時期に夏休みがある学校への設置ということや、地球温暖化のことを考えると複雑な思いがします。エネルギーの大部分を化石燃料に頼っている現代では「暑いのでエアコン→温暖化の加速→さらにエアコン→さらなる温暖化→……」という悪循環になっていかないでしょうか。

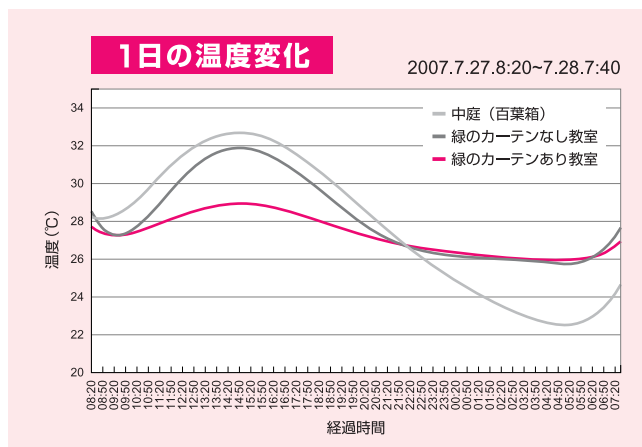
学校という教育機関では、大量生産・大量消費を伝えるのではなく、持続可能な考え方を身につけさせていくための環境教育をしっかりとやった上で、エアコン設置するのがベターではないでしょうか。例えば、エアコンを設置しても二酸化炭素をできる限り増やさない以下のような方法を取り入れてみてはどうでしょうか。

- ①省エネや3Rなどのエコ活動に学校全体で取り組む。
- ②木を植える。または、植林活動に参加する。
- ③屋上緑化や夏場に緑のカーテンを設置する。
- ④エアコンの電力を自然エネルギーからのものに限定する。

員弁中学校2007年度選択理科2年生の授業では、中庭の教室前に網をつけ、つる性の植物を育てて「緑のカーテン」を作り、どれだけ気温を下げることができるのかを調べました。

7月下旬の晴れの日、直射日光の影響を受けない教室中央に設置した自動記録温度計による1日の温度変化によると、緑のカーテン設置教室と設置されない教室との温度差は最大3.5℃という結果（右グラフ）が得られました。中部電力HPによると緑のカーテンで20～30%の省エネ効果があると報告されています。快適さはそのまま電気代や二酸化炭素排出量が減るのです。

「自然の叡智」ともいえる緑のカーテンが全国の学校や会社、家庭にも広めていくことは実質的な温暖化対策にもなり、人々の省エネ啓発にもなるのではないのでしょうか。



問 北勢庁舎 生活環境課 T 72-3946 F 72-3748